

堤体下流面の漏水について

平成28年11月24日

独立行政法人水資源機構
池田総合管理所

1. 漏水対策工の概要(1/3)

1. 対策工を実施する水平打継面

・堤体下流面において、現在も水平打継面を通じた漏水が確認されている箇所について、対策工を実施するものとし以下の計6面を対象とした。

左岸-1、左岸-2、左岸-3、左岸-5、左岸-7、左岸-8

堤体下流面図(左岸側)

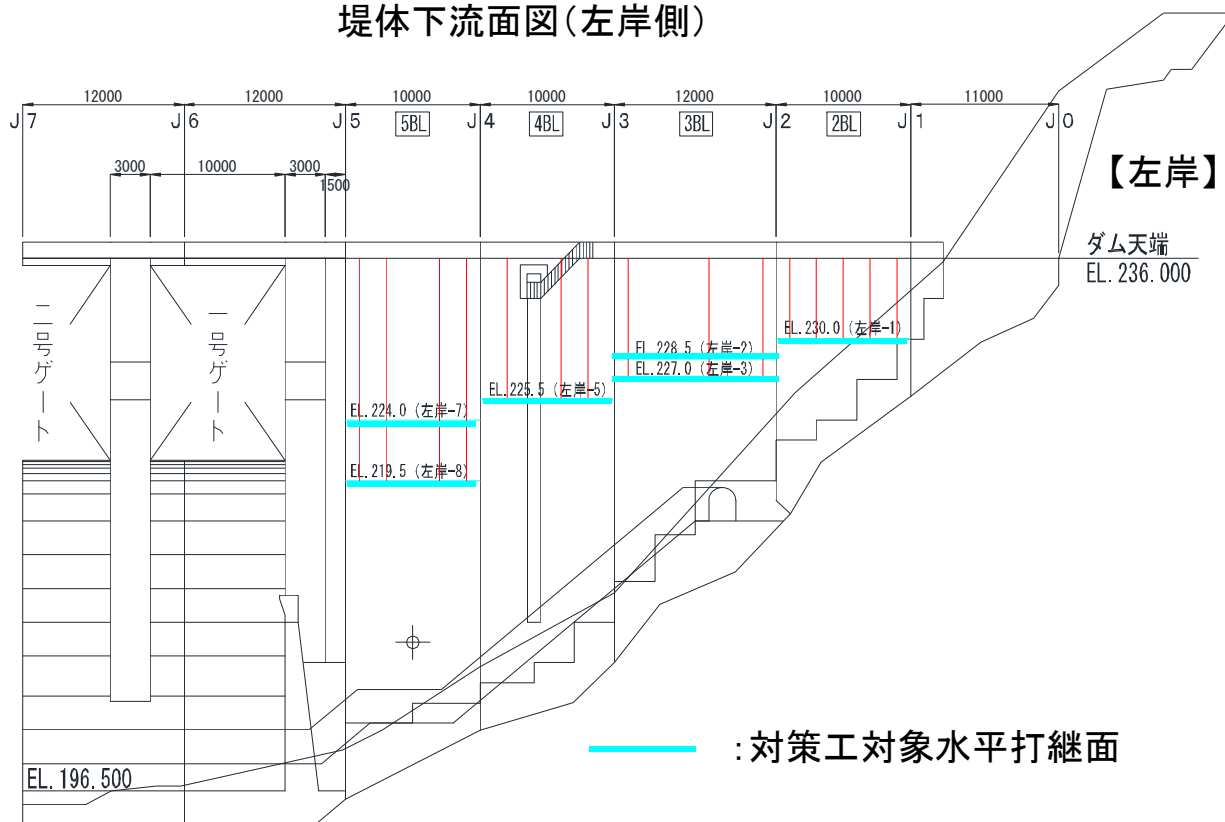


写真1 堤体下流面漏水状況
(左岸側BL2~5)

平成27年2月5日 貯水位EL.232.96m

(9:00)

図1 対策工対象水平打継面
1

1. 漏水対策工の概要(2/3)

2. 対策方法

- ①施工時期 : 全漏水量及び継目の開きが最も大きくなる12月上旬から1月下旬。
- ②工 法 : 堤頂からの機械ボーリングの後、セメント等注入による。
- ③注入箇所 : 各段面の上流側に配置するものとし、過去の注入実績及び堤体構造物を考慮し全15箇所を選定。
- ④注入材料 : 超微粒子セメント(平成24年度と同様)。

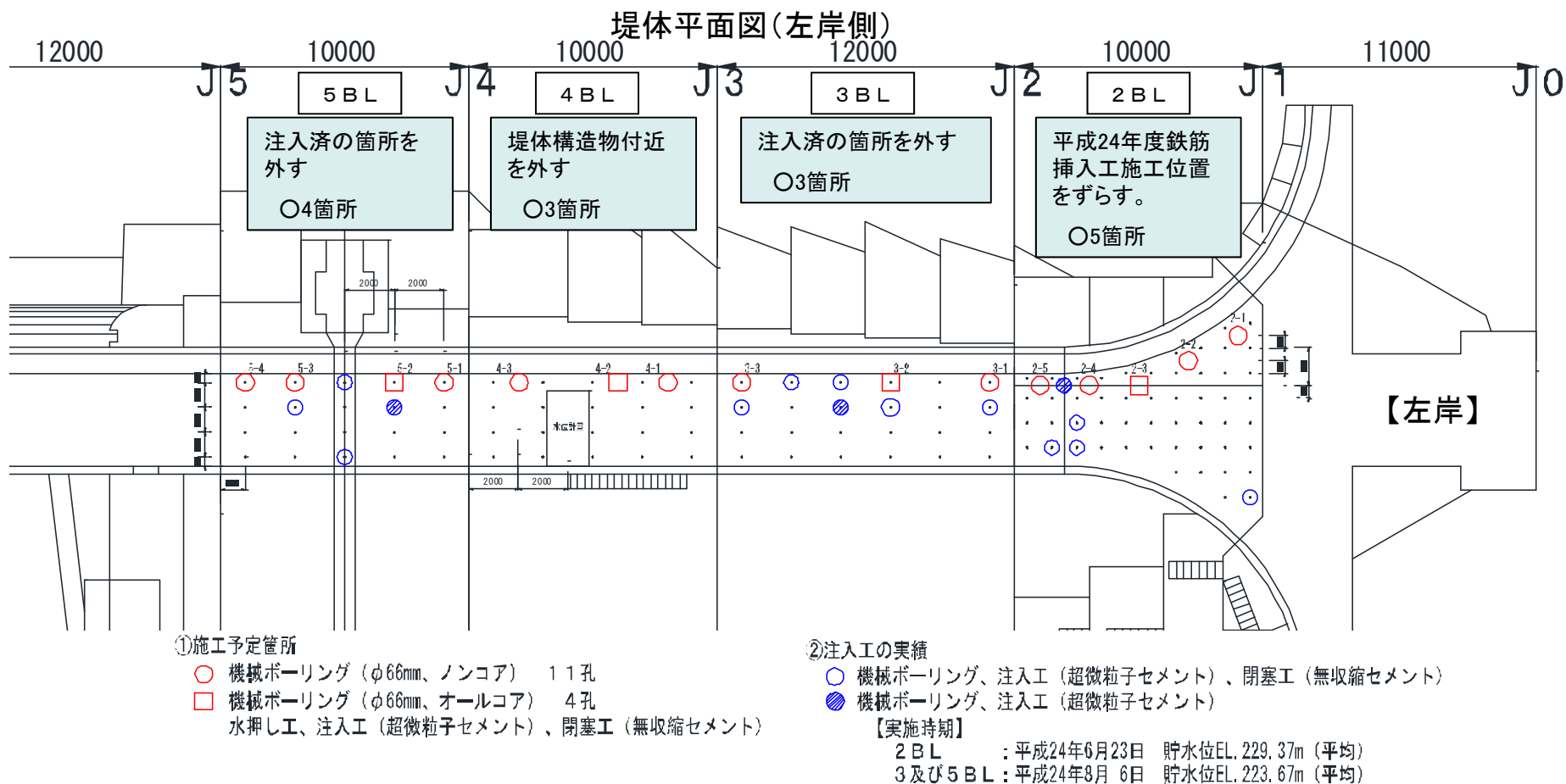
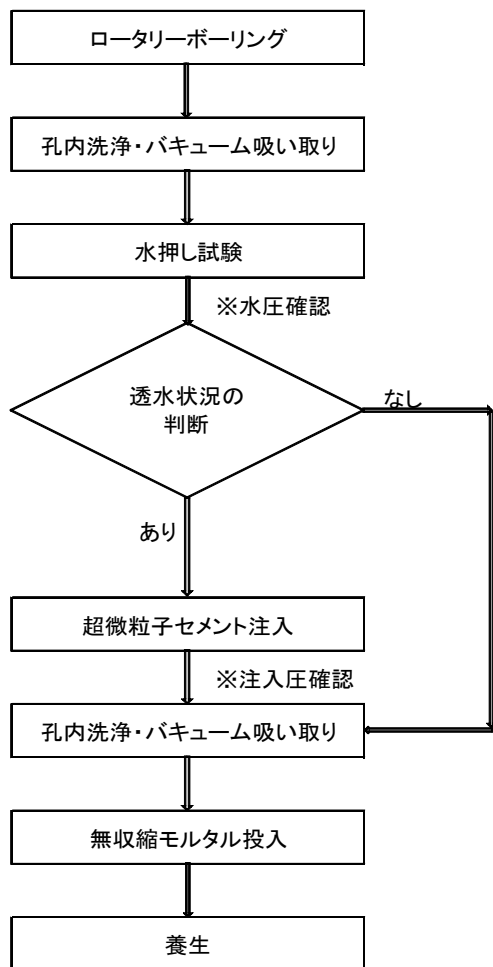


図2 注入工実施箇所

1. 漏水対策工の概要(3/3)

3. 施工フロー



施工は、隣接する孔への影響がないよう実施した。
また、注入圧力は、堤体に影響のない範囲とした。

4. 実施状況



機械ボーリング削孔状況



超微粒子セメント注入状況



3BL EL227.00m水平打継面注入時リーク状況

- ・今回の施工は、漏水量が多くなる冬期とし、平成27年12月から平成28年1月に実施した。
- ・施工においては、セメントミルクの比重、注入圧力などを適切に管理し、リーク確認を行った。
- ・今後も、水平打継面の漏水状況を確認していく。